

令和2年度 三股町立三股中学校 学校評価シート

4段階評価 4 期待以上(75%~100%) 3 ほぼ期待どおり(50%~74%) 2 やや期待を下回る(25%~49%) 1 改善を要する(0%~24%)

【学校の教育目標】 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

評価項目	評価指標	具体的数値目標と達成状況	方策・手立て	結果	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	評価 員	評議員 コメント
					指標別	総合			
1	確かな学力の育成	「わかる・できる」授業の構築	生徒・保護者・職員の授業評価結果3以上	○「みまたんモデル」の推進 ○教育研究所と連携したICT教育の推進 ○重点支援校訪問を通じた授業力向上	生徒 4(87.7%) 保護者 4(81.2%) 職員 4(97.7%)	4	○ 県教委の推進する「授業改善の4+4のチェックポイント」及び三股町教委の推進する「みまたんモデル」の整理を行い、授業形態(1単位時間)の共通理解・共通実践を図った。また、昨年度に引き続き、学校支援校訪問を受け、県・町教育委員会から支援をいただいた。この取組が授業力向上へと繋がったと考えられる。 ○ ICT機器を積極的に活用することで、生徒の学習意欲の向上に繋がっている。 ○ 生徒の委員会活動の一貫とし、学習コンクールを実施しているが、熱心に取り組むことができた。 ○ 「家庭学習の手引き」は、昨年度より活用頻度は上がっているが、内容の見直しが必要とされる。 ○ 読書推進に取り組んではいるが、読書量の増加にはいたっていない。	3	○生徒の授業態度は良いと感じている。 ○家庭学習での格差が生じているので、手立てを講じて欲しい。 ○「考える力」を身に付けさせるためには、日本語力を向上させることが大切である。そのためにも読書量を増やす指導をして欲しい。 ○ICT機器の活用が学習意欲に繋がっているように感じた。
		基礎的な知識・技能の定着	学力・実力テストの結果地区・県平均以上	○ 放課後学習を通じた支援 ○ 学習コンクールの実施	○コンクールへの取組 生徒 4(89.4%)	4			
		家庭学習の充実	学力・実力テストの結果地区・県平均以上	○「家庭学習の手引き」の周知と活用 ○ 復習課題の工夫・宅習時間の確保	○手引きの活用 生徒 3(47.6%) 保護者 2(35.5%) 職員 2(35.5%)	2			
		読書活動の推進と読書量アップ	読書冊数、一人年間20冊	○ 図書室からの広報活動の実施	生徒 3(53.7%) 保護者 2(29.1%)	2			
2	心の教育の充実	文教のまち三股の伝統教育の推進	保護者・生徒・教員のアンケート結果3以上	○ あいさつ・校門での一礼の実施 ○ 無言清掃の実施 ○ 生徒会 ○ 自主的・自発的な生徒会活動の活性化	○あいさつ 保護者 4(81.9%) 職員 4(80.0%) ○生徒会 生徒 4(83.6%) 職員 4(82.2%)	4	○ 町で一斉に取り組んでいる郷土教育が完全に定着している。その取組が、学校が落ち着いている一因でもある。 ○ 生徒の日常生活において、思いやりをもった言動等の数値が高い。 ○ 特別支援教育においては、職員研修などを実施する必要がある。また、外部機関との連携も必要である。 ○ 不登校率が昨年度よりも高い。コロナ禍に伴い、臨時休業を行った事や家庭訪問等ができないことが大きな原因だと考える。今後は、関係機関との連携及びSNS等を活用した家庭との連携の充実が必要である。	3	○不登校生の増加は少なくともコロナ禍が影響していると感じているが、学校だけの問題ではないように思える。また、学校が楽しいと思えるものを一つでも設定して欲しい。 ○郷土教育により郷土愛が育まれていると思う。
		いじめ防止対策・不登校生徒等への対応	不登校率3.5%以下	○ いじめ防止基本方針の定着 ○ 月に1度のいじめアンケートの実施 ○ 教育相談アンケートと相談の充実	不登校数 1年13 2年18 3年19 不登校率 5.9%	1			
		思いやりの心の育成	保護者・生徒のアンケート結果3以上	○ 合理的配慮を考慮した特別支援教育の充実 ○ 全教育活動を通じた道徳教育・人権教育の充実 ○ 合理的配慮を考慮した特別支援教育の充実	生徒 4(84.3%) 保護者 4(86.6%)	4			
3	健康安全と体力の向上	交通安全指導や安全点検の徹底	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	○ 通学路の安全確認・登下校指導 ○ 安全点検や授業、部活動でのケガ予防	生徒 4(98.6%) 保護者 3(73.1%) 職員 3(52.2%)	3	○ 生徒の交通ルールへの遵守についての意識は非常に高いが、地域からの苦情等は年間をとおして多い。機会あるごとに、集会等を実施し、交通指導には取り組んできたが、学校だけの指導には限界がある。家庭及び地域との連携が急務である。 ○ 感染症対策は、十分な取組を実施しており、その成果が現状に反映している。今後も、常に危機感をもち、対策を講じていきたい。 ○ コロナ禍に伴い、部活動等の制限され、運動量の確保がなされなかった。 ○ 部活動休養日は確実に定着している。	3	○交通マナーを含め、校外での活動に課題がある。学校だけではなく家庭・地域で育てることが重要である。 ○部活動の好成績は地域の励みになる。また、国の推進しているように地域連携型にすべきである。
		危機管理意識の高揚	保護者・生徒のアンケート結果3以上	○ 予告なしの避難訓練の実施・防災教育の実施 ○ SNS普及の対応と、情報モラル教育の充実 ○ 感染症対策等の充実	○情報モラルの充実 生徒 4(98.6%) 保護者 4(86.6%) 職員 3(55.6%) ○感染症対策 生徒 4(97.9%) 保護者 4(81.5%) 職員 4(76.2%)	4			
		主体的な体力向上や健康意識の育成	保護者・生徒・職員のアンケート結果3以上	○ 立腰指導 ○ 栄養教諭と連携した「弁当の日」の実施 ○ 部活動における休養日の推進	○立腰 生徒 4(80.8%) ○運動 保護者 3(67.7%) 職員 4(91.1%)	3			
4	家庭・地域との連携	地域と共にある学校づくり	保護者・職員からの評価3以上	○ 学校ホームページの内容充実 ○ 各種通信などによる情報提供の充実	○通信・HP 保護者 4(86.3%) 職員 4(95.6%)	4	○ HPの閲覧数が24万4千人を超えており、県内の学校でもトップクラスである。今後も学校の情報発信には尽力したい。 ○ コロナ禍に伴い、頻りに家庭への連絡が必要となった。「あんしんメール」での連絡を確立させたことで、スムーズな連携がとれるようになった。 ○ 校長通信及び学級通信等は定期的に発信できた。 ○ コロナ禍に伴い、地域の行事等が中止となり、地域行事等への積極的な参加ができなくなった。	4	○情報発信にHP及び「あんしんメール」は非常に有効である。 ○HPの閲覧数は群を抜いている。更なる充実をお願いしたい。
		家庭・地域との信頼関係の構築	保護者・職員のアンケート結果3以上	○ 魅力ある学校参観日の計画と運営 ○ 「あんしんメール」の登録推進と内容充実 ○ 保護者等と学校の連絡体制の確立	○連絡体制の確立 保護者 4(86.8%) 職員 4(95.2%)	4			